

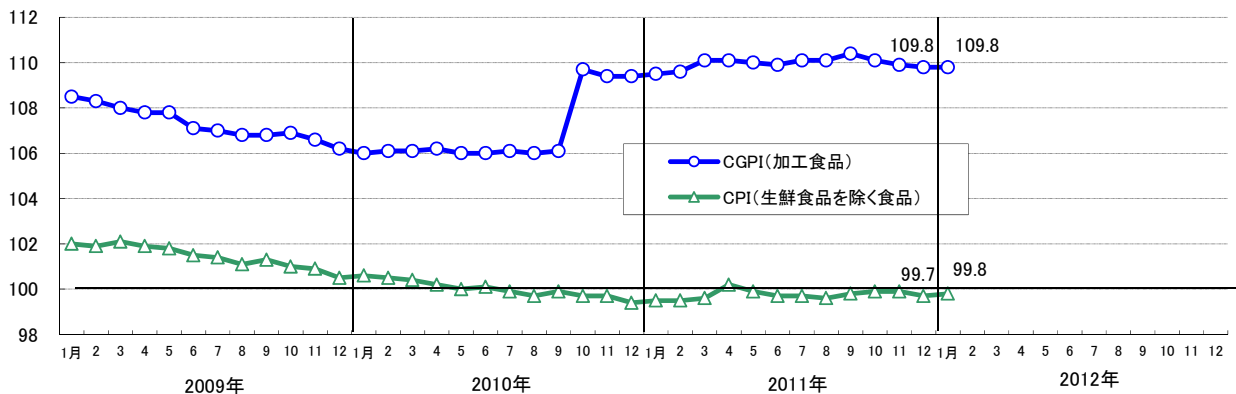
加工食品の物価及び生産・販売動向

1 加工食品の企業物価及び消費者物価

企業物価は上昇傾向、消費者物価は概ね横ばい傾向

加工食品の企業物価指数は、2010年10月から原材料の高騰を背景に上昇に転じ、2012年1月は109.8と高水準を維持している。一方、消費者物価指数（生鮮食品を除く食品）は同99.8で、総じて横ばい傾向となっている。

図1 加工食品の企業物価指数、消費者物価指数



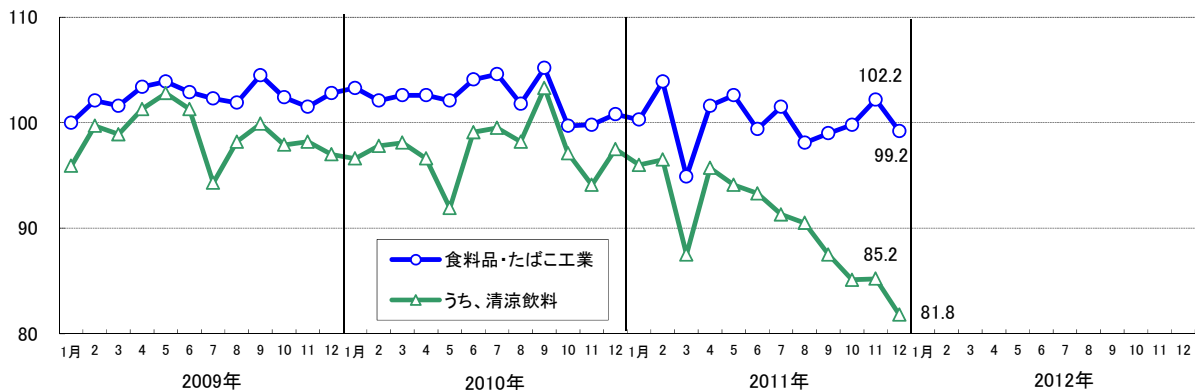
資料: 日本銀行「企業物価指数」、総務省「消費者物価指数」

2 食品製造業の生産動向

食料品・たばこは前月比でわずかに減少、うち、清涼飲料はやや減少

12月の食料品・たばこ工業の生産指数は、99.2で前月比▲2.9%とわずかに減少した。東日本震災の影響等により3月は大幅に減少し、さらに、夏季以降は11月を除いて概ね低調に推移している。うち、清涼飲料は81.8で前月比▲4.0%とやや減少している。

図2 食料品・たばこ工業、清涼飲料の鉱工業生産指数の推移 2000年=100 季節調整済



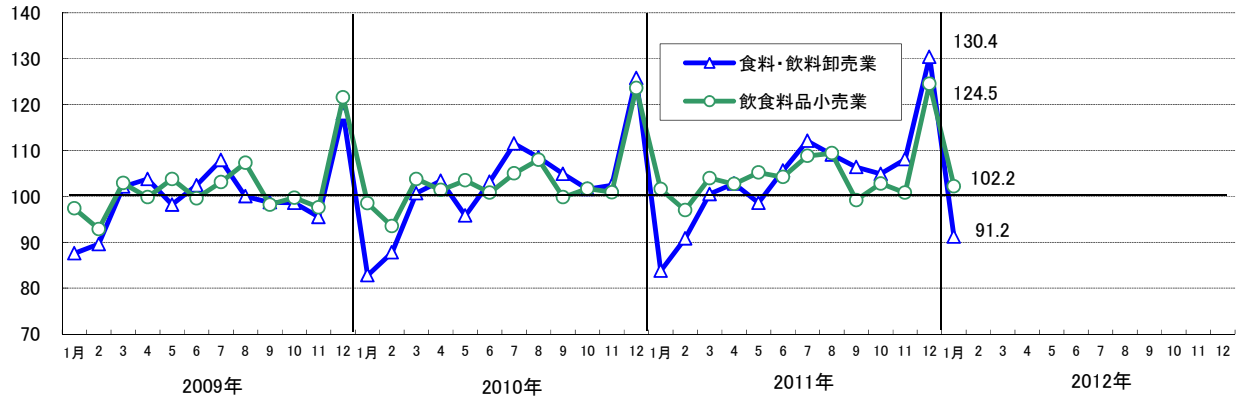
資料: 経済産業省「鉱工業生産指数」

3 卸売業と小売業の販売動向

卸売業の販売額は対前年比でかなりの程度増加、小売業の販売額は対前年比で横ばい

2012年1月の食料・飲料卸売業の販売額指数は91.2で対前年同月比8.8%とかなりの程度増加。飲食料点小売業の販売額指数は102.2で同0.6%と横ばいになった。

図3 食料・飲料卸売業と飲食料点小売業の販売動向



資料: 経済産業省「商業販売統計」

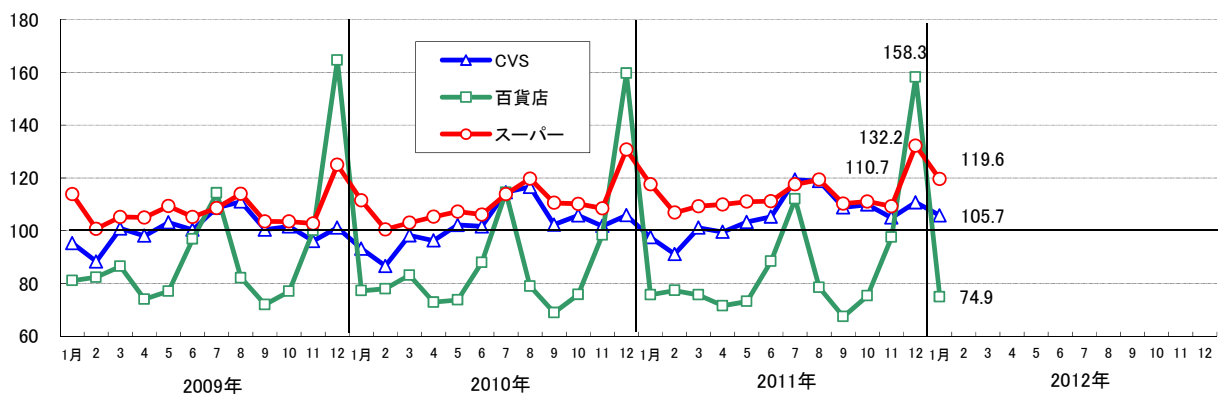
4 スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の加工食品の販売動向

CVSは増加、スーパーは横ばい傾向、百貨店は減少傾向

2012年1月のコンビニエンスストア、百貨店、スーパーにおける加工食品の販売動向についてみると、コンビニエンスストアは105.7で対前年同月比8.5%とかなりの程度増加した。スーパーは119.6で同1.7%とわずかに増加、百貨店は74.9で同▲1.1%とわずかに減少した。

コンビニエンスストアは引き続き好調を維持しているが、スーパーでは概ね横ばいから増加傾向。一方、百貨店は引き続き減少傾向で推移している。

図4 スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の加工食品の販売動向



資料: 経済産業省「商業販売統計」

注: コンビニエンスストアはFFと加工食品の合計。百貨店及びスーパーは飲食料品。